

## ミュージアムへ行こう 福田美術館 東山魁夷と風景画の旅 日本から世界へ

### 【事前学習】

〈日時〉 2025年1月28日

〈場所〉 高槻センタービル街3F

〈講師〉 福田美術館・嵯峨嵐山文華館 副館長  
竹本理子 先生

〈内容〉

- ① 福田美術館の紹介
- ② 「東山魁夷と風景画の旅」の見どころ
- ③ 嵯峨嵐山文華館のご紹介



### 講義概要

- ・ 2019年10月1日オープン 100年続く美術館を目指す
- ・ 一流の設計陣 建築設計 安田幸一（ポーラ美術館など）  
ランドスケープ設計 三谷康彦（京都迎賓館など）
- ・ ヨーロッパに倣って原則写真撮影 OK（復習が可能となる）
- ・ コレクション 約2000点

### 展覧会の見どころ

- ・ 西洋の風景画、起源は古代ローマ 家の中と外の自然をつなぐための装飾
- ・ 風景画の評価は低かった
- ・ 市民層の台頭により人気が出始めた ターナー、コローなど
- ・ 印象派の台頭によりさらに人気が出た モネ、ピサロなど
- ・ 東山魁夷 1908年横浜にて誕生 1929年帝展初入選 若くして順風満帆のスタート  
1999年老衰のため死去 享年90歳
- ・ 魁夷の言葉

清澄な自然と、素朴な人間性を大切にすることは、人間のデモニッシュな暴走を制御する力の一つではないだろうか。人はもっと謙虚に自然を、風景を見つめるべきである。

## 【鑑賞会】

〈日時〉 2025年2月4日

〈場所〉 福田美術館（嵯峨嵐山）

阪急嵐山駅

1班、2班 9:45集合 入館10:00

3班、4班 10:00集合 入館10:15

終了後自由解散

各班食事会へ行かれたようです



第1室

## 第1章 日本と世界の風景画

海外との交流が盛んになった明治時代。1900年頃からは渡航する日本画家も増えていきました。西洋絵画を研究しようという意欲をもって渡欧した彼らは、中でも伝統的な日本の山水画とは大きく異なる風景画に関心を寄せます。あるがままの自然を写実的に描くことや、自然光が生み出す鮮やかな色彩を日本画の世界にも取り入れたいと考え、帰国した彼らは日本の風土に合った新たな風景画を模索しました。

第1章では輪郭線を省き、色彩の濃淡のみで空気や光を表現した「朦朧体」を用いた東京の横山大観よこやまたいかんや菱田春草ひしだしゅんそうらの作品をご紹介します。また、海外の風景を日本の伝統的な技法で描いた京都の竹内栖鳳たけうちせいほうや山元春挙やまもとしゆんきよらの作品も展示。さらに、彼らが憧れたカミーユ・コローやクロード・モネによる作品や、18世紀に京都で活躍した与謝蕪村よせぶそんや池大雅いけのだいがらの山水画も併せてご覧いただきます。

竹内栖鳳 春の海



速水御舟 デッドシティー



土田麦僊 ヴェトイユ風景



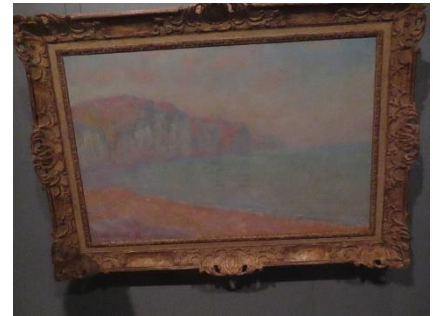
カミュー・コロ  
孤独、ヴィジャンの思い出



オーギュスト・ルノアール  
コート・ダジュールの松林



クロード・モネ  
プールビルの崖、朝



## 第2室

# 第2章 東山魁夷と旅する風景

東山魁夷(1908-1998)は神奈川県横浜市に生まれ、18歳で東京美術学校に入学。25歳でベルリンへ留学し、欧州各地を周って写生を行い、大学ではドイツの美術史などを学びました。帰国後しばらくして、第二次世界大戦が勃発します。1944年には新居が焼失。翌年、軍隊に召集された魁夷は、訓練中もたびたび空襲に遭うなど、悲惨な戦争体験をしました。さらに終戦後、母と弟が相次いで他界。失意の底にあった魁夷ですが、それでも風景画を描く中で自然との繋がりを深く感じ、平静を取り戻していきます。そうして制作された《残照》は、第3回日本美術展覧会で特選、政府買い上げとなりました。以降、「京洛四季」や「白い馬の見える風景」の連作を発表。奈良県の唐招提寺御影堂障壁面の揮毫を担うなど、90歳まで絵筆を執り続けました。

第2章では、魁夷が旅をして見た日本と欧州の風景を基に描いた作品の数々を展示いたします。志賀高原にある三角池を描いた《静けき朝》や、オーストリアのミラベル宮殿に取材した《緑の園》など、幻想的で清澄な魁夷の作品をご覧ください。

東山魁夷 静けき朝 志賀高原（三角池）



東山魁夷 ヴィラットの運河





2020年3月30日 午後撮影 たまたま撮影していました

《夕涼》

空と水のひろがり  
の中を、堤の直線  
が水平に截る。  
豊かな形に刈り込  
まれた松の繁みが、  
そのままの姿を  
投影する。  
修学院離宮浴龍池  
に見る幻想的な  
風景。

(魁夷の言葉)



緑響くモチーフとなった場所

2019年6月17日午前 撮影



**御射鹿池**  
みしゃかいけ  
Mishakaike Pond

御射鹿池は農業用のため池で、農林水産省の「ため池百選」にも選ばれています。東山魁夷が描いた「緑響く」のモチーフとなり、テレビCMなどで話題となりました。水質としては酸性が強く魚は生息できませんが、そのことから透明度は高くなっています。

水面が穏やかな時には、鏡のように周囲の風景が映り込み、神秘的な雰囲気になります。

2024年6月13日午後 撮影





魁夷が好きなモーツァルトゆかりの地  
オーストリア・ザルツブルグを流れる、ザルツァハ川の右岸に  
位置するミラベル宮殿の庭園。ここはバロック様式の名園として  
知られ、宮殿の間はモーツァルトが演奏を行ったことで知られ  
ています。左右対称の構図は西洋的な美意識に基づくもので、  
緑一色に染められた画面中央に咲く可憐なピンクの花の描写  
が、魁夷のロマンチストな一面を示しています。

美しきドナウの流れ  
オーストリア・メルクの修道院からドナウ川を俯瞰的な構図で  
捉えた作品。タイトルはヨハン・シュトラウス2世が作曲したワ  
ルツ「美しく青きドナウ」を意識したものでしょう。自ら「美しく」  
と題するのを魁夷は憚ったのでしょうか、誰よりも青を使いこ  
なした画家の描くドナウは、名曲に劣らぬほどの美を備えてい  
ます。

第3室

### 第3章 東山魁夷と同時代のカラリスト

魁夷は全体の色調を統一させ色を薄く何度も塗り重ねることにより深みのある世界を創り  
上げました。とりわけ彼の作品でしばしば用いられる青色は「東山ブルー」と呼ばれ、深み  
のある色彩で人々を魅了しています。

魁夷だけでなく、戦後の日本画家は西洋絵画に負けない存在感のある画風を探求しました。  
彼らは色数が少ない従来の岩絵具に比べて、色彩豊かな新岩絵具を意欲的に取り入れ  
た結果、より幅広い表現ができるようになりました。

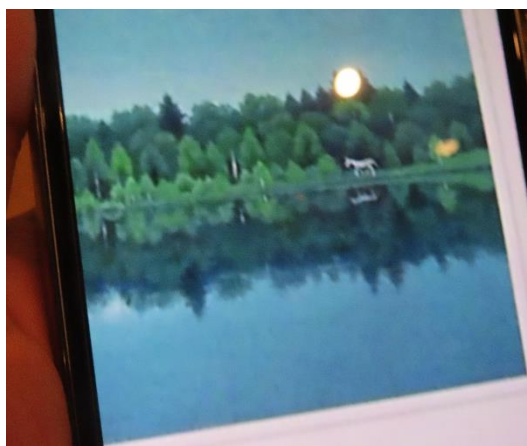
第3章では東山魁夷をはじめ小野竹喬、中村岳陵、奥田元宋、加山又造の、魁夷と  
同時代に活躍した4人の画家による作品をご紹介します。ここではそれぞれの画家が  
創造した色彩に注目し、彼らが到達した風景画の違いをお楽しみください。



### 画面に残された馬の影

朝日に照らし出される池畔が幻想的なドイツの風景。画面右側にはぼんやりと馬の姿が。明確に白い馬を描き込まずとも成立している風景に、さらなる生命感を付与したのかもしれない。北欧への旅や唐招提寺御影堂の壁画制作を経て、装飾性と抒情性を兼ね備えた独自の画風を完全に確立し、それまでとは異なる可能性を示した、魁夷の集大成とも言える晩年の作品です。

こんな画像を取り込んだ青年がいました



最後に

本日をもって講座は終了しました。

全体の集合写真はありますが、皆様方のこれからのご活躍、ご健勝をお祈り申し上げます。

クラスアドバイザーの皆様には大変お世話になりました。

この場をお借りしてお礼申し上げます。

最後に4班の様子をお知らせします。

